

平成25年9月17日

沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会

委員長 石田 東生

沼津高架P Iプロジェクトの実施状況（ステップ3, 4）に関する評価等について

沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会は、沼津高架P Iプロジェクトにおけるステップ3および4の実施状況について、提出資料に基づく審議並びに勉強会や車座談議の視察を通じて監視を行った。これを受け、実施状況に関して次の通り評価・助言を行う。

評価

ステップ3および4は、鉄道高架や貨物駅移転に関する議論の前提となる地域づくりの目標を実現するための代替素案を沼津駅周辺地区と原地区ごとに選定し（ステップ3）、さらに、両地区を組み合わせた代替案を選定する（ステップ4）とともに、代替案の比較評価のための比較項目を選定する段階である。

これら2つのステップの内容は相互関係が深いため、委員会の助言のもと、並行して進められたが、並行して議論を整理することができたため、結果として効率的に議論が進んだと評価できる。

また、P I運営事務局は、代替素案や比較項目の議論においても、地域づくりの目標との関係を意識させるよう工夫し、ステップ2からの議論の流れを断ち切らないように努力したことや、また、代替案相互の短絡的な比較評価に陥りがちな議論をよく管理し、予断なく代替素案や代替案を提案し検討するように努めたことは大いに評価できる。また、主たる議論の場である勉強会においては、参加者間で熱い議論も見られたが、代替素案や代替案に関する意見は概ね出尽くした感があり、P I運営事務局として偏りのない中立的な姿勢で運営することができたと評価できる。

勉強会以外の車座談議やオープンハウス等の場や広報紙等を通じて、広く情報提供や意見把握を行うとともに、現地見学の場を設け、議論の広がりや深みを増す努力がなされ、委員会からの指摘に基づき、若年層や女性の意見把握にも努めた。このように広く実質的なコミュニケーションを展開し参画を促す姿勢は特に評価すべきである。

助言

- 1) 今後の議論では、技術的な検討内容に関して、第三者の専門家から指導や監査を仰ぎ、公正で客観的な検討を心がけること
- 2) 引き続き女性や若年層なども含む広範な層に多様な方法でアプローチすること
- 3) 今後の議論においては、関係者間の対立がさらに鮮明になる可能性もあるため、時間管理概念を再度認識しつつ、緻細な議論に陥らず俯瞰的な議論となるようなプロセス運営に努めること
- 4) 対立軸を巡る争いに立ち戻らないよう、議論の視点に留意しながら互恵的な解決を目指すこと

以上